

弱 視



子ども達に「**勇氣**、**夢**そして**笑顔**」を

弱視とは

眼鏡やコンタクトレンズをつけても、視力が弱い状態を「弱視」といいます。

視力の発達

ぼんやりしか見えてないよ



生まれてすぐの赤ちゃんは、**ぼんやり**としか見えていません。いろいろなものを見て、**眼を使うことで、視力は発達**します。生まれたばかりの赤ちゃんの視力は 0.01 程度ですが、4 歳頃には 1.0 まで成長します。

視力が発達するのは、8 歳頃までと期間が限られているので、その期間内に弱視治療をする必要があります。



弱視の原因

- ・ 屈折異常（遠視、近視、乱視）がかなり強く、ピントが合いにくい
- ・ 片方の目の屈折異常が強い
- ・ 斜視
- ・ 目が覆われている状態（白内障、眼瞼下垂 等）



弱視の治療・訓練

・眼鏡、コンタクトレンズ



屈折異常が原因で弱視になっている場合は、ピン
トがあった眼鏡やコンタクトレンズをつけます。

・アイパッチ（遮蔽法）

片眼の弱視の場合は、よく見えるほうの目を
隠して弱視の目で見えるようにします。



・原因となっている病気の治療

白内障や眼瞼下垂等が原因で弱視になっている
場合には、原因の病気をまず治療します。

・目を使う

お絵かき、ぬりえ、本を読む、字の練習など、
目を積極的に使うことが効果的です。



ワンポイントアドバイス

弱視の治療中、「かっこいい眼鏡やね」「アイパ
ッチ頑張ってるね」と幼稚園や保育園の
先生や周囲の人に言ってもらえると、♪
頑張れるお子さんもいます。

限られた期間で治療をしなければ
いけないので、**周囲の協力が**
得られる工夫をしましょう。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

<眼 科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605